

コード No. 28111

Anti-Dock6 Rabbit IgG Affinity Purify

容量 : 100 µg

はじめに : Rho ファミリーの低分子量 GTP 結合タンパク質は、細胞の形態変化、細胞分裂、分化などを司るシグナル伝達因子のひとつであり、個体レベルでは発生や器官形成を制御する重要な役割を果たしています。その機能制御は厳密になされ、機能不全が起った場合には癌、免疫疾患、神経変性疾患などの多くの疾病の原因となっています。

Dedicator of cytokinesis (Dock) 6 は、この Rho ファミリーの低分子量 GTP 結合タンパク質のなかでも Rac1 と Cdc42 を特異的に活性化する、Rho ファミリー低分子量 GTP 結合タンパク質活性化因子(交換因子)で、広範囲な発現を示す分子です。Dock6 は脳や感覚神経組織に多く発現しているため、神経細胞の増殖分化に重要な因子であることが指摘されています。また、分娩異常や性分化異常が認められ代謝異常や知能障害を併発するアダムズ-オリバー症候群の原因遺伝子としても知られています。これは Dock6 の変異によりその機能が低下し、正常な細胞骨格形成が行われないことが原因であると指摘されています。ヒトには、Dock6 ときわめて類似した Dock7 と Dock8 と呼ばれるタンパク質が存在しています。しかし、その制御機構には多くの不明な点があります。

免疫抗原 : Human Dock6 の部分合成ペプチド

精製方法 : 抗原ペプチドによる特異精製

包装形態 : 1% BSA、0.05% NaN₃ 含有 PBS 1.0 mL に溶解したものを凍結乾燥

再生方法 : 精製水 1.0 mL 添加(この時濃度は 100 µg/mL となります)

保存方法及び安定性 : 2 ~ 8 °C 保存 5 年間安定

: 溶解後 -20 °C 保存 2 年間安定

使用目的及び使用方法 : 免疫細胞染色 10~20 µg/mL にて使用可能

: ウェスタンブロッティング 0.2~2 µg/mL にて使用可能

: 免疫沈降法 0.2~2 µg/test にて使用可能

特異性 : ヒト、マウス、ラットと反応

- 参考文献 : 1. Côté JF, Vuori K. Identification of an evolutionarily conserved superfamily of DOCK180-related proteins with guanine nucleotide exchange activity. *J Cell Sci.* 2002 Dec 15;115(Pt 24):4901-13.
2. Miyamoto Y, Yamauchi J, Sanbe A, Tanoue A. Dock6, a Dock-C subfamily guanine nucleotide exchanger, has the dual specificity for Rac1 and Cdc42 and regulates neurite outgrowth. *Exp Cell Res.* 2007 Feb 15;313(4):791-804.
3. Miyamoto Y, Yamauchi J. Cellular signaling of Dock family proteins in neural function. *Cell Signal.* 2010 Feb;22(2):175-82.